

大阪アミューズメントメディア専門学校
第1回学校関係者評価員会報告書
(令和4年度)

学校法人吉田学園
大阪アミューズメントメディア専門学校

令和4年7月21日
学校関係者評価委員会

学校法人吉田学園 大阪アミューズメントメディア専門学校
令和4年度 第1回学校関係者評価委員会報告書

学校法人吉田学園の学校関係者評価実施規程に基づき、大阪アミューズメントメディア専門学校 学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、次の通りご報告いたします。

実施日時：2022年7月13日（水）17：30－20：00

実施場所：大阪アミューズメントメディア専門学校 6階ライブラリー

外部委員：香川悟 一般社団法人デジタルエンターテインメントクリエイター協会理事
安道やすみち 小説家・ゲームデザイナー

事務局：森憲司 大阪アミューズメントメディア専門学校 学校長
下間正巳 大阪アミューズメントメディア専門学校 教務部長
巨勢 佳美 大阪アミューズメントメディア専門学校 教務副部長
飯間陽子 大阪アミューズメントメディア専門学校 学生課課長
岩本真穂 大阪アミューズメントメディア専門学校 キャリアセンター課長

議事進行：下間正巳

次 第：（1）令和3年度 自己点検・自己評価報告

- | | |
|-------------|-----------|
| ①教育理念・学校運営 | （森） |
| ②教育活動等 | （下間 / 巨勢） |
| ③学修成果 | （岩本） |
| ④学生支援 | （飯間） |
| ⑤学生の受け入れ募集等 | （森） |

(1) 令和4年度 中間報告

令和3年度自己評価報告書をもとに、各担当者より前年度の振り返りと報告がなされた。

①教育理念・学校運営 [森学校長]

①教育理念・目的・人材育成像

昨年に引き続き大きく変更となる部分はない。特に教育理念については産学共同・現場実践教育の拡充を行っていくため、コンテンツ制作を行っている。またコンテンツの多様化に伴う新しいジャンルの創出を検討し、大阪独自の産学共同を開拓する必要があると考えている。

②組織運営

職員の残業削減への取り組みとして、標準の出勤時間を9時半、授業開始を10時からとし、新たにフレックスタイム制を導入したことで、効率的な働き方が可能となった。実際に残業数は大きく減少し労働基準局からも良い評価を受けていることから、高い効果があったと考えている。

④情報公開

情報公開に関してはHPで公開しているが、保護者に普段の活動内容が届いていない傾向があった。現在は、日頃の活動報告や今後の予定などを複数の媒体で発信しており、定期的に提供する仕組みを確立しつつある。

【質疑応答・感想】

■ [香川委員] 4段階の点検評価で3が多く目立つ。自己評価を読む限り十分適切とを感じるが、4でないのはなぜか。

→ [森学校長] 最大点でない理由は、向上に向けて取り組み中である項目が多く、構想は動きだしているが、結果がすべて出揃っている状況ではないため、このような評価となっている。具体例を挙げると、組織の風通し向上のため各部署に部課長を設置したが、実際の効果測定を行うには時間を要する。

→ [下間部長] 事務的な具体例では、導入した学生管理システムを使いこなせているかなどが挙げられる。

■ [香川委員] 東京校との関係性や大阪校の独自性は改善しているか。

→ [森学校長] 学校法人として必要であると考える事柄については大阪独自の裁量で進めている。就職を例に上げると、フリースクール(東京校)では業界以外の就職を目指すことを推奨していないが、学校法人としては、プロになることを第一目標に置きつつも本人並

びに保護者が望む場合においては業界以外の就職を視野に入れて指導していかなければならないという判断をしている。また、こういった大阪校の学校法人としての運営を東京校が学ぶ姿勢が出てきている。

- [香川委員] 教育理念が講義の内容や先生の指導、学生の意識に反映されていないように感じる。他校と比較して AMG の教育理念はその独自性につながっていると推察するが、正しく理解している学生は見受けられず、伝わっていないのではないかと印象を受ける。

→ [森学校長] 形式として本人の学習への意志意欲を必ず入学前に確認している。出願時には全ての願書に目を通し審査しているが、大学合格レベルの優れた成績を修める生徒が大部分をしめている。本校では学生生活の規律や所作についてもやや厳しい指導を行っているが、素直に受け入れ学ぼうとする姿勢から、志の高い生徒が集められていると考えている。また学生募集においても、耳心地の良いことだけを伝えるのではなく、厳しさや特殊性を伝えていることから、失望して退学するケースは非常に少ないと感じている。そのため学生が圧力や締め付けを感じて、納得しないまま授業を受けているということはないと認識している。

ただし、15 年程度前と比較して学生は（精神的に）著しく幼くデリケートな学生が増えた印象を受けている。本来であれば高校卒業までに学校や家庭で獲得しておくべき学びを、本校では代行している部分多くがある。こういった学生の対応は担任の専門分野ではないため、メンタルケアを行う担任自身のメンタルケアが課題。

一日単位で（メンタルを含む）不調を訴える者は一定数いるが、成績判定会議によると、教員や科目によって出席率のばらつきはなく、学生ごとの個性と考えている。

- [香川委員] クリエイティブな業界を目指す在学生は、学校側の示す厳しさに対して意欲をかき立てられる者が多いが、その厳しさとは、求められるクオリティーが高いのか、講師の言動が厳しいのか、勉学の拘束時間の長さのかなど具体的に理解していないのではないか。表面的にしか理解せず教育理念が深く伝わっていないように思う。学校側がサポートする部分と学生本人が頑張る部分を理解してもらう必要があるため、言葉を選びながらも伝えていかなければならない。

→ [森学校長] センシティブになっている部分ではあるが、学校としては個々に掘り下げをして説明を行うべきと考えている。教務会議で改めて検討を行う。

- [安道委員] 授業に出てこなくなる学生は、（厳しさの理解にかかわらず）家庭環境に問題がある場合がほとんど。大きなストレスを抱えている学生は作品を書けないが、メンタルケアを行った結果、書けるようになる事例は多くある。学校として家庭環境による問題の対応をどのように考えているか。

→ [森学校長] 本来学校が立ち入る必要のない部分。本人から相談があれば深く踏み入った対応を取る場合がある。担任から申し出があり、保護者への指導が必要であれば、校長が対応を行う事例が過去に数回ある。

■ [安道委員] 2-1-2 について、「企業課題等の創出」とあるが、これはどのようなものか。

→ [森学校長] グループ企業からのインターンシップ。出版系ではウェブトゥーンの流れによりコンテンツの事例が増えて来ている。

■ [香川委員] 点検評価 2 になっている項目は、教育理念と同じく効果測定中であるということか。

→ [森学校長] 結果が出揃っていないため低評価。継続課題としている。

②教育活動 [下間教務部長・巨勢教務副部長]

①目標の設定

次年度の職業実践専門課程の申請準備として教育編成委員会を組織している。これに伴い、これまで学科ごとに行われていた講師会やシラバス作成などを各学科共通のスケジュールで実施。また、職員研修会も実施増やしていく。

②教育方法・評価等

教育編成委員会を発足させ運営していくことで、幅広い知見で今の業界の流れを取り入れ、カリキュラムの最適化につながると考えている。

現行の授業運営については、オンライン授業をどこまで認めるのかの線引きが必要。出席率や補講課題に対してより詳細な評価基準を設けていく。

インターンシップについては業界ごとに偏りがあるため、今後より多くの実践の場を学生に提供していくことを AMG グループ内で課題としている。

学生が、講師の意図しない受け止め方をしている場合が増えているため、講師とより連携を取っていく必要があると考えている。これに対し今年度より初めて授業評価アンケートを実施し、講師会などで活用している。これにより学生側の授業の捉え方や具体的な思いを汲み取ることが可能となった。

③資格試験

資格を取得するという業界ではないため推奨しているわけではないが、業界の動向を見つつ、今後就職や仕事に必要なであればサポートを行っていく。

【質疑応答・感想】

■ [香川委員] 評価点基準は学校業界の相対的な点か、学校ごとの絶対的な評価かどちらか。

後者の場合、3-3-3において「必須ではない」ために（満たしていなくても）高い点検評価となっているのは、項目の回答として適切なのか。

- [下間教務部長] 自己評価なので学校独自の評価。専門学校の大半が資格取得のための学校であるため、このような項目が設けられている。資格試験実施の有無の項目ではなく、あくまでも取り組み方についての問。点数が4段階中3となっているのは、前回の当委員会で指摘のあった、就職に大きく影響しないが関連している資格や検定の指導を行っていないため。また、業界の就職を目指さない学生に向けた事務系資格などについても検討中のためである。シラバスに組み込む場合は、2年制という時間的な制約をクリアする必要がある。
- [香川委員] 学生が自分の時間を使って学ぶ必要はあるが、資格試験の情報提供や、自主的に学習する上で疑問があればサポートできる態勢を用意できないか。あるゲーム会社では資格試験費用が成功報酬となっており、事前申請して合格すれば必要費用を会社が支払う制度がある。意欲的に自分の能力を高めるための手段や機会を与えるべき。
- [森学校長] 早期に進路変更を行う学生の目標を用意することが課題として認識している。

■ [香川委員] 教育編成委員会について詳しくお聞きしたい。

- [下間教務部長] 目指す業界の実務経験者や有識者を招集し、第三者的にカリキュラムについての意見を伺うことを主たる目的としている。
- [香川委員] 他校では講師の能力不足で、業界で役に立たないのはずれな授業をしいている事例があった。教育編成委員においても選任は非常に重要となる。

■ [香川委員] オンライン授業に関して、オンラインと登校の学生が混在している状況にやりづらさを感じる。

- [下間教務部長] 一部学科ではオンライン化により出席率や課題の提出率が向上する結果になった。
- [香川委員] 作品のクオリティーが保たれていれば良いと考える。しかし、表面的な数値であれば在り方を再考すべき。
- [下間教務部長] 教務部の取り組みとしては、科目ごとにオンライン実施の可否を判断しているため、担当講師から相談があれば対応可能。原則オンラインなしとしている学科もある。

■ [安道委員] 情報公開に関して、授業評価はどこで公開されているのか。具体的にどの範囲が公開されるのか。詳細についてお聞きしたい。

- [巨勢教務副部長] 本校ホームページ上で公開となるが、まだ公開されていない状態。主に科目と評価の割合が公開されている。初回である今回は全科目でアンケートを行ったが、学科によっては科目が多いため、学生からの回収率低下や内容の希薄化が見

られた。また、すでに終了した授業についてのアンケートであるため、学生側に回答するメリットがないことが課題となった。今後課題を整理しつつもアンケート自体は継続していく方針。

- [安道委員] アンケートの結果を受けて、講師側が追従するとシステムが崩壊する危険がある。他校では学生をお客さん扱いし、まともな授業とならないという事例を聞く。
- [下間教務部長] あくまでも参考値として活用するにとどまる。数値にしきい値を設けると、ご指摘のような事態に陥る可能性はあると考えている。

■ [安道委員] 資格に関連して、部活動を実施できないか。自分が学生の頃は放課後に学生同士でボードゲームなどを行って多くのことを学んだ。公式な部活であれば他学科からも集まりやすく校内での交流が盛んになるのではないか。資格取得勉強や学科間交流を目的とする場を設けることはできないか。

- [森学校長] 基本的に自主的な実施を制限するものではないが、公式に組織するほどには手が回らないのが実情。
- [下間教務部長] やはり2年制であることが妨げの要因となっている。密なスケジュールが組まれているため、学生自身も余裕が無い場合が多い。学科間の交流という観点では、学園祭がこれにあたる。

■ [香川委員] 自分が学生の頃は、他学科の作品鑑賞や作品を掲示されての公開投票など様々な刺激があり、取り組みに結果が出ると励みになった。

- [下間教務部長] 講評の機会を増やす必要を感じている。
- [安道委員] 学生に場所を提供するだけでも交流のきっかけになる。

③学習成果 [岩本キャリアセンター課長]

①資格・免許取得率

就職において有利になる資格や免許が無いため積極的な取得を推奨していない。今後、クリエイティブ業界の求めるスキルの変化などで、就職に有効な資格が出てくれば方針を再検討する。

②卒業生の社会的評価

エンタテインメント業界が関東中心であるため、活躍している卒業生ほど関西を離れて活動を行っており、現状は学校側から積極的な連絡は行っていない。転職相談など卒業生側から連絡があった場合に受け身的な対応をしている。

今年度からは学生管理システムが導入されたことで、卒業生に関しても就職企業情報などを管理できる体制が整い、セミナーや勉強会の情報発信が容易になった。

希望の進路に就けた卒業生や、その就職先からは概ね高評価を頂戴している。その反面、希望通りの進路が叶わなかった学生にも同様に細やかなサポートが必要と感じる。クリエイティブ業界以外の、いわゆる一般就職のなかでも継続的に内定者を輩出している企業と、良好な関係を築けるようにアプローチを続けていく。今後は一般就職への指導をより細やかにし、前倒しでの実施をしていく方針を取っていく。なお今年度に関しては、2 年次 4 月の時点でゲーム学科に一般就職希望の学生がいたため、5 月から一般学内説明会を開催し、6 月末頃から内定をいただく学生が出てきている状況。しかし想定に反し、前倒しで内定の出た学生はすぐに承諾せず、就職活動を続けようとする傾向があった。

【質疑応答・感想】

- [香川委員] 就職率の向上が見込んでいる点は専門学校の本懐であるため評価できる。
- [香川委員] 卒業生の管理システムについて、どの様に利用し発展していくかのビジョンがあれば伺いたい。
 - [岩本キャリアセンター課長] 卒業生向けのスキルアップセミナーやグループの周年パーティーなどが企画されているが、個別の招待連絡は学科ごとに年度や担当担任などにより管理方法が様々だったが、一元管理が可能となり効率化が図れる。また、卒業生就職先情報や場合によっては転職の情報なども長期的に管理が見込める。
- [香川委員] 在学中は縦のつながりが無く、卒業後も教員とのつながりしか残らず物足りない。学校への愛着が湧きづらい。
 - [安道委員] 関連して、OBOG ネットワークに登録したが、登録審査のレスポンスが悪く、更新頻度も低いいためわざわざ見に行く理由がない。せめてアプリにして SNS と連携するなど外部ツールを利用したほうがよいのではないか。登録に時間がかかるようであれば、学籍番号で代用するなどして省略できないのか。また、多くのプロを排出しているにも関わらず、卒業後のつながりが属人化しているため、卒業生同士が互いを認識しにくい。他の卒業生の活動なども知ることができれば活用方法が広がる。
 - [下間教務部長] 属人化を解消するための第一歩としてデータベース化した段階。
 - [安道委員] 京都芸術大学の通信教育部では airU という受講システムシステムがあり、そのシステム上で学校誌を作り毎月掲載している。向学心の高い学生や卒業生に有用なコンテンツと考えている。明らかに高いコストがかかっていると思うが、卒業生にわざわざログインさせるにはその程度の水準が必要。
- [香川委員] クリエイティブ業界以外の就職を進めるタイミングはいつか？
 - [岩本キャリアセンター課長] 進級の際に面談をしているため、そのタイミングから進

路を定めていく。今年はすでに4名が一般企業内定を頂いているが、一人も承諾しなかった。タイミングについてはここ数年試行錯誤をしているが、ある程度自主性に任せた上で進路変更を行ったほうが、学生本人も納得できていると考えている。

- [香川委員] 業界を志していた学生にとって、一般就職を目指すことは死刑宣告に近いのではないかと。そうなる前にカバーできなかったのか。

→ [下間教務部長] 昨年度までは8月のクリエイター面接のあとに一般就職を行ってきた。この頃にはすでに一部の学生がメンタル的に落ち込んでいるため、今年度は進級の段階で特に出席率や成績の振るわない学生に対し、進路変更を提案した。例年通り夏以降にも一般学内面接を実施するため、二重のセーフティーネットのような形を導入した。

- [安道委員] ノベルス文芸学科では就職に意欲的に取り組む学生が増えた。ネガティブな動機からではなく、就職後も書き続ける前提で、安定した執筆活動基盤と社会経験を積み見聞を広めるために就職活動を行う。

④学生支援 [飯間学生課課長]

①学生相談・保護者との連携

年々、奨学金や修学支援新制度の利用者が増加している。これは様々な媒体で情報発信を行っていることや社会的に関心が増え制度自体が周知されだしたことが影響していると考えている。また貧困状況に近い方が奨学金の利用を前提として本校に入学を頂いていることで、経済格差が広がってきている印象。家庭の状況により、利用できる制度が異なることやプライバシー保護の観点から、個別での対応が求められる。奨学金に限った話ではないが、特に金銭の絡む部分に関してはどれだけ情報の発信を増やせるかを今後の課題としている。

学生の生活環境への支援に関して、居住環境はフリースクール時代から提携している学生マンションや寮の方にご協力いただき、コロナ禍中で初めて親元を離れる学生に安心感を与えられる環境を目指している。また、これまであまりなかった近隣トラブルなどが目立つようになっており、管理会社と密に連携を図りながら該当学生らの間に立ち、問題解決と学生のケアに動いている。

今年度からは学生管理システムの導入により、こういったトラブルや奨学金情報なども成績情報と同様に記録を蓄積している。これにより教務担任や講師も奨学金利用の有無が確認できるため、成績不良や出席率の悪い奨学生に対しすぐに対応が可能となった。

【質疑応答・感想】

- [香川委員] 学生課はどのような部署で組織上のどの位置なのか。
- [飯間学生課課長] 事務局内部に5部署あり、広報学募推進課、学生課、キャリアセンター、法人学務、システム管理課で構成されている。学生課の業務は学費や奨学金、住まいや学生生活の支援、学校行事や入学希望者の管理など多岐にわたる。学生は基本的に担任を窓口とするが、証明書発行や奨学金など手続きが必要な事柄に関しては直接学生課とやり取りを行う。

- [香川委員] 保護者の方は、さまざまな学校の部署から連絡が来ることが、効率の良い情報共有の妨げになっているのではないかと考えている。また保護者への連絡はレスポンスが無ければ大方届いていないと考えるべき。なにをもって伝達ができたかとみなしているのか。
- [飯間学生課課長] 既存の連絡方法では、発信頻度を上げる以外の対応ができない。いわゆる既読がつく専門のツールなどもあるが、連絡媒体が増えると混乱が生じるうえ、確実に伝えられるようになるわけではない。保護者に連絡が取れない場合、最終的に記録が残る形で手紙を郵送する対応を取っている。現状の対応では不十分と判断した場合にはツールの導入を検討する。
- [香川委員] 家庭によって、学生本人に一任したい場合や、必ず保護者連絡がほしい場合などさまざま。入学の際に、保護者に連絡の要否を確認し合意を得ると良いかもしれない。この時点で連絡方法についても合意を得られると良い。

- [香川委員] 保健室の存在は周知されているのか。校医の設置は検討しているか。
- [下間教務部長] 入学直後のオリエンテーションで周知されている。基本的に体調不良者が出た場合は、帰宅をうながす対応となる。帰宅が困難な場合に利用されるため、学科によって利用者は少ない。メンタルの落ち込んだ学生やダンスなどの運動をともなう学科の利用者が多い。
- [森学校長] 利用者が増えれば、校医の配置を含め対策を検討する。最近では薬剤師の遠隔処方なども実験的に行われていることから、外部の医者によるリモート面談や診察ができないか模索している。

- [香川委員] ストレスによる体調不良を訴え、数日に渡り欠席する学生は、病院の診断書を提出させてはどうか。安易な逃げ場を容認している環境が、最も本人のマイナスにつながってしまう。
- [安道委員] 先日、めまいを理由に締め切りを過ぎて課題提出をした学生がいた。当初提出を認めなかったが、耳も聞こえないと訴え食い下がるため診断書の提出を求めたところ、実際に難聴が判明する事例があった。また、長期的に頭痛を訴えていた学生に関して、身内の不幸によるストレスと考えていたが、実際は水頭症だった事例があった。

不調を訴えた場合に、システムの受診させることは本人の健康管理上有効と思う。

- [下間教務部長] 診断書となると発行料も少なくなく、発行に時間がかかるため、通院させて結果をヒアリングしている。プロを目指す上で、学校では容認する部分と教育上曲げられない部分の線引きを、よく説明して理解してもらう必要がある。

⑤学生の受け入れ募集等 [森学校長]

6以降の大項目については割愛し質疑応答のみ行う。

【質疑応答・感想】

- [香川委員] 6-1-3 防災に対する体制について、以前は4評価だったと記憶しているが、評価が下がっているのはなぜか。

→ [下間教務部長] コロナで防災訓練が実施できていないため評価が下がっている。

→ [飯間学生課課長] 入学時のオリエンで避難に関する情報や避難場所を周知しているが、実際に訓練を行っていないため記憶に残っていない可能性がある。

- [安道委員] エアコンの故障について、定期的なメンテナンスは行われているのか。

→ [飯間学生課課長] 今月、屋上に設置している室外機が故障したため、現在修理中となっている。設置後5年程度の比較的新しいもので、定期的にメンテナンスを行ってはいるが、猛暑により消耗が激しいことが原因と報告を受けている。

- [安道委員] 11-1 留学生の募集について、低い評価となっているのはなぜか。

→ [森学校長] 今年度より留学生の募集を開始した。学校によっては学生の半分程度が留学生という場合もあるが、本校では優秀な方を戦略的に少人数受け入れることを目的としている。

→ [森学校長] 今回初めて門扉を開けた段階。来年度に数名入学する予定となっている。

- [香川委員] 日本人の学生が海外の会社に就職する場合はどのようなサポートが行われるか。

→ [下間教務部長] 学生が希望した場合は独自の企業調査を行うが前例は少ない。ゲーム業界では新卒採用をほぼ実施しておらず、国内企業で職歴を積んでからの転職が一般的である。

→ [巨勢教務副部長] 声優専科では、卒業後に母国の中国でアニメの制作会社に就職し、AMGへアフレコのオファーをしてきた生徒がいた。中国ではギャランティーや給料が高額なため、技術を持ち帰りたい留学希望者も増えてきている。

■ [香川委員] 10-1 社会貢献はどのような意図で項目があるのか。

→ [森学校長] 学校法人は無税となっているため、ボランティアや設備資源開放などの地域還元を行っているかを点検している。

→ [下間教務部長] この他、安全注意喚起のポスターや漫画などを提供しており、周辺小中学校との交流として学習用ゲーム案の話は出ている。

以上

大阪アミューズメントメディア専門学校
第2回学校関係者評価員会報告書
(令和4年度)

学校法人吉田学園
大阪アミューズメントメディア専門学校

令和 5 年 2 月 8 日
学校関係者評価委員会

学校法人吉田学園 大阪アミューズメントメディア専門学校
令和 4 年度 第 2 回学校関係者評価委員会報告書

学校法人吉田学園の学校関係者評価実施規程に基づき、大阪アミューズメントメディア専門学校 学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、次の通りご報告いたします。

実施日時：令和 5 年 2 月 8 日（水）17：30－19：00

実施場所：大阪アミューズメントメディア専門学校 6 階ライブラリー

外部委員：赤松加枝子 大阪放送株式会社 編成部長
香川悟 一般社団法人デジタルエンターテインメントクリエイター協会理事
安道やすみち 小説家・ゲームデザイナー
藤井美樹 株式会社界グラフィックス 人事課

内部委員：森憲司 大阪アミューズメントメディア専門学校 学校長
下間正巳 大阪アミューズメントメディア専門学校 教務部長
巨勢佳美 大阪アミューズメントメディア専門学校 教務副部長
朝日庸平 大阪アミューズメントメディア専門学校 事務局副部長
飯間陽子 大阪アミューズメントメディア専門学校 学生課課長
岩本真穂 大阪アミューズメントメディア専門学校 キャリアセンター課長

議事進行：朝日庸平

次 第：(1) 学校長挨拶

(2) 令和 3 年度 振り返り

- ・ 授業運営 [下間教務部長]
- ・ 就職状況 [岩本キャリアセンター課長]
- ・ 入学生募集状況 [朝日事務局副部長]
- ・ 学生支援 [飯間学生課課長]

(3) 令和 5 年度学校運営について [森学校長]

(1)学校長挨拶

本校の特色に合う委員にお集まりいただきしており、第三者視点から忌憚のない意見をいただけることを期待している。年度末になり、学校行事は滞りなく終了に向かっていく。6 期生の卒業式がまもなく執り行われるが、状況を鑑み、卒業パーティーは中止となった。就職に関しては後ほど担当者より報告されるが、在校生と職員の努力が数字に現れていると考えている。11 月に裏口壁面の縦樋が崩落する事故が起きた。幸い人への影響はなかったが、本来あってはならないため再発防止にむけ調査及びメンテナンスを行っている。

(2) 令和 4 年度 振り返り

令和 4 年度第 1 回学校関係者評価会議の内容を踏まえ、令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 1 月 31 日までの、一年間の振り返りと報告がなされた。

①授業運営 [下間教務部長]

①-1 カリキュラム編成について

昨年度と比較して、新型コロナウイルス流行対策としての休講・オンライン授業・分散授業は減少した。何度かの休講などにより所定のスケジュールより遅延することになったが、年度内にはすべてのカリキュラムが消化できる見込となっている。

次年度は安全に配慮しつつも、より通常のカリキュラムへとシフトしていく年度とな

る予定。コロナ禍前に行っていた外部との取り組みなども再開を見込んで、カリキュラムを編成行っていく。

①-2 関連分野における実践的な職業教育について

昨年度と比較して、作品発表会やオーディションなど、外部の業界関係者が来校してのイベント開催が多くなった。インターンシップなど、学生が外部の企業へ行っていることも再開されつつある。

対面イベントの開催に加え、企業の求人活動の活発化もあり、就職を目的とする学科では概ね好調な就職率で推移している。また、印象論ではあるが学生のモチベーションも（高校生活の後半からコロナ禍に見舞われていた学生が多いこともあり）全体に高くなっているように感じられた。

①-3 成績評価・単位認定、進級・卒業判定について

I.2022 年度前期成績判定会議を 2022 年 9 月 16 日に実施。

何度かの休講などにより消化された科目や単位が少ないため、本年度は成績判定を見送り、出席率のみの集計を行うこととなった。次年度より学則変更に伴い前期の終了日程が 9 月 30 日となるため、前期の成績判定は行わない予定となる。

II.2022 年度卒業認定会議を 2023 年 2 月 17 日実施予定となる。

前述のとおり 2 年次の成績の判定と、卒業の認定を行う予定となる。

III.2022 年度進級認定会議 2023 年 3 月 20 日実施予定

前述のとおり 1 年次の成績の判定と、進級の認定を行う予定となる。

①-4 総括（活動報告、次年度方針など）

今年度も学校内での感染拡大を発生させることなく、1 年間を送ることができた。次年度は感染対策を徹底しつつ、平常化を目指していく。

また、次年度は職業実践専門課程の申請を予定している。本年度より一部の取り組みを開始しているが、外部の企業や団体と連携しながらのカリキュラム編成・授業運営、また教員の研修などを強化する予定となっている。

【質疑応答・感想】

- [安道委員] 世間では感染爆発が起きているなか、学内でクラスターとならなかったのは、学生の慣れもあるが、職員の管理能力の高さが伺える。
また、学生のモチベーションについては、デジタル化、オンライン化により、学生のリアル志向の強まりを感じる。

- [安道委員] 職業実践専門課程のカリキュラム編成委員会は講師の行うカリキュラムを外部の人と相談しながら変えていくということか。
 - [下間部長] 業界団体や業界関係者となるため、実際に教えている人ではなく、第三者目線でカリキュラムについて意見をいただく。これにより職業に即した講義をしていることを担保してもらうことが目的。
 - [安道委員] 以前から講師会等で実施していたと認識しているが別物なのか。
 - [下間部長] 学科によっては従来から業界関係を招聘していたため、近いものではあるが、文部科学省の様式に沿った組織に再編成される。
 - [安道委員] 関連して、AMG の教員は業界人で構成されているが、職業実践専門課程の業界講習は行うのか。
 - [森学校長] より一層広く理解を深めるためられる研修を実施いたします。

- [香川議員] 感染拡大防止については、学生を含む学校全体の努力の成果として評価できる。来年に向けてコロナ対策の線引を検討されていることとは思いますが、コロナ以前のような授業運営ができれば望ましいとは思うものの、慎重に決めていかなければならない。

- [香川議員] 前期の成績評価の方法について。課題や授業に対して意欲的だが、体調不良により出席率が下がった学生の評価が下がり、オンライン授業で出席だけし、授業参加に意欲的でない学生が、評価される可能性について疑問が残る。
 - [下間部長] 出席を集計するのみで、成績を判定する訳では無い。出席率の集計目的は主に奨学金であり、出席率によって継続の可否を判定している。科目によって内部で成績をつけることは問題ないが、単位認定をするのは期末となる。

■ [香川議員] 職業実践専門課程の認定を受けることによるメリットはどのようなものか。
また認定による制限などはあるか。

→ [下間部長] 職歴がある方が認定校へ入学される場合に、条件があれば補助が出る場合がある。また学校側としては、文科省より認定を受けていることを広報的にアピールできることがあげられる。制限などは特にないが、認定を受け続けるためには研修などを継続して行う必要がある。

■ [藤井委員] 企業側からみて、コロナ禍で専門分野の基礎力が下がっているのを感じていたが、学習環境が戻りつつあるのを受け安心している。先日の作品発表会では明るく話す学生も多く、直接話すことでわかる面も多くあると再認識している。新卒採用をする企業として、そういったコミュニケーションを取れる機会が徐々に増えればありがたい。

■ [赤松委員] オンラインを使いながらうまく運営していると感じた。引き続き学生のモチベーションを維持し就職、デビュー等に繋げていただきたい。

②就職状況 [岩本キャリアセンター課長]

②-1 就職状況（実績）について

今期と過去3年同時期との就職率比較は表の通り。

②-2 業界の求人動向について

コロナ禍以前と比較すると、採用応募数が増加した企業が多いと聞いている。ゲーム業界、映像業界ではリモートワークが積極的に導入されていることや、待遇改善の認知が広がったこと、ステイホームにより業界全体が好況であることが影響しているとみられる。特にプログラマー職は、選考において大卒者と競合する傾向が強まっている。

②-3 卒業生の社会的な活躍について

卒業生への支援は、就職・転職相談が中心となっている。卒業生向けの勉強会や交流会等、全学的な取り組みに向けて情報発信や情報収集の方法を検討していく必要がある。

②-4 総括（活動報告、次年度方針など）

昨年10月には3年ぶりの対面発表会を開催し、採用関係者90名が来場した。ただし遠方の企業からは現在もオンライン開催のリクエストがあるため、次年度は対面・オンライン同時開催で就職イベントを実施する。

また今年度から声優学科にもキャリアセンターのClassroomを導入し、早期から就職活動をスタートできる体制となった。関西のテーマパークや、イベント・コンサートの運営企業からも求人を紹介いただいている。

声優学科においても就職希望者が増加傾向にあり、特に専攻分野に関連する企業との関係は強化していく方針。

【質疑応答・感想】

- [安道委員] 学生ごとの個性を見ながら熱心に指導されていると感じる。ゲームクリエイター学科の学生は1年次の終わりから就職活動を始め、4年制大学等と比較して実力のついていないうちから競うことになり不利になる。AMG 独自の強みを出せる就職活動の取り組みはあるか。

→ [岩本課長] 企画の職種は最も大卒学生と比較される。学生自身にも理解させ、早めの行動を促している。書類選考の時点ですでに大卒学生と遜色ない作品が準備できている学生は大手企業を目指し、中間層は学内の発表会等の直接企業と接触する機会によって本人の魅力を伝える事ができる。また就職活動が難しい学生については、キャリアセンターや担任から個別での進路サポートなる。

- [香川委員] エンターテインメントの業界において就職が人生の目標ではないが、就職は専門学校としてのゴールの一つとなる。ゲーム、アニメ、キャラクターデザイン以外の学科の実績はどのようになっているか。

→ [岩本課長] 現時点で内定の出ているマンガ、ノベルス、声優の職希望者は各学科5名以下程度。年度によって人数のばらつきはあるが、早期の就職サポートが望ましい。マ

ンガとノベルスに関しては、数年前からキャリアセンターのクラスルームを発足していたが、今年度より声優学科においてもサポート体制を整えた。

- [香川委員] 学科によって就職ではなくデビューという形で実績を残しているが、どの程度達成されているか。
- [巨勢副部長] 声優業界の進路を希望する学生については、おおよそ 100%の合格率となっている。就職も視野に入る学生については、以前は 2 年次の夏冬ごろまで声優の進路を模索させていたが、進路変更せずそのまま退学となってしまった事例もあるため、今年度は 1 年次末までに進路を確定させ、早めの就職対策を実施している。また例年 10 名程度であった就職希望者が近年 20 名程度と増加傾向にある。
- [岩本課長] 声優学科で早期に就職の進路をとった学生が、希望するテーマパークへ就職した事例があったが、年明け頃からの進路変更となるとすでに募集が終わり、選択肢が限られてしまう。
- [香川委員] 自分の希望に近い企業や自分の能力を活かせる企業に就職できる機会を与えられるのは強みとなる。
- [赤松委員] 声優を目指す学生も進路変更する学生も、少し視野を広く持ち選択肢を広げられる環境を提供することで学生も安心して学ぶことができる。
- [安道委員] マンガイラスト学科とノベルス文芸学科に関しては、ここ数年在学中のデビュー実績はない。ただし、卒業後に本の出版やシナリオ業界に入る卒業生の数は増加している。

■ [香川委員] コロナによってリモートワークなどが増えたが、コロナの沈静化にともない対面を重視するゲーム企業が増えている。学生側がリモートワークを希望する傾向などはあるか。

- [下間部長] そういった傾向は感じられない。新卒となる学生側は指導を受けやすく安心感を得られる対面での働き方を選んでいるように感じる。

■ [藤井委員] 他の学校でも 2 年制の学生は入学後すぐ就職を意識しなければ就職が厳しいと聞いていたが、高い水準で就職実績を残している。最近では制作ツールが無料で公開されていて、大学生等が独学で就職を目指しているケースが増えており、2 年制と 4

年制では時間の使い方が大きく変わってくる。チーム制作等の専門学校ならではの強みを生かした就職活動が重要視されるが、チーム制作では企画やプログラムに焦点が当たりやすいため、弊社の扱うグラフィックでは個人での作品が重要視されることもある。個人制作への取り組みなどは行われているか。

→ [下間部長] ゲーム系学科では夏冬と年に 2 回制作を行うが、ゲーム・アニメ 3 DCG 学科の学生は、就職活動直前の冬に限って個人制作を選択肢に入れるようにしている。

■ [藤井委員] 発表会で学生と直接話せる機会は、制作の意図や学生の人柄をみやすい。オンラインでは共有が容易で一度の機会ですり多くの学生と関われるため、それぞれ良い面がある。採用側としては両方継続していただけるとありがたい。

→ [岩本課長] 今後この形式がスタンダードになるのではと考えている。

■ [藤井委員] 2 年制であるためか、インターンシップの参加率が少ない印象を受ける。幅広く企業を見るチャンスであり、企業側もインターンシップで学生のやる気をみていたり、内定が決まることもあるため、時間的な制約があるとは思いますが、積極的な参加を促していただきたい。

■ [香川委員] 学生と教職員間のコミュニケーションツールが導入されたことから、学校時間外の質問や交流が増えていると推察するが、就職活動のサポート面においても増加しているか。

→ [岩本課長] 就職関連の相談は Classroom で質問箱を設けている。深夜や土日に作業をする癖をつけさせたくないため、基本的には朝 9 時から夜 18 時ごろに返信をしている。

→ [香川委員] もともと自分の時間で作品制作に取り組む学生が多い印象だったが、オンライン化で、より容易になったことから自主制作時間が増えているのではないか。また一方で、共同制作では共通の目標を掲げ制作を行っていたため、教員チームに対し指導をしていたが、個人制作が増えたことにより、自主学习のような側面が強く、個別での指導が増えたことにより教員側の負担が大きく増えているのではないか。

→ [下間部長] 少しずつ方法を変え効果測定を行っているところ。個人制作で優れた作品を作る学生もいるが、そうでない場合もある。様子を見ながら様々な対応を取っていく

必要があると考えている。

→ [香川委員] 授業の時間を取ったうえで、発表の場を増やして行くことが有効と思われる。

→ [下間部長] 学内だけでなく企業や一般にも発表する機会を設けられればと考えている。

■ [安道委員] マンガやノベルスの学科において、学校の課題が多く自分の作品が作れないという話を聞く。そういった状況が講師陣にも周知されると、よりよい環境になるのではないか。

③入学生募集状況 [朝日事務局副部長]

③-1 学生募集状況（入学者数実績）について

全体数は昨年同時期と比較して約 50 名減と著しく減少しており、特に声優分野においては、受験者進路意識の変化やトレンド・ニーズの移り変わりが数値結果として顕著に表れている。例年、全学科において入学者数の増減はあるものの、近年、大学受験を始めとする別分野と検討する、いわゆる安定志向が加速しており、特に声優分野においては、就職状況や収入面の不安定さから最終的に別分野を選択していると考えられる。

③-2 特待生入試運営について

こちらも全体の入学者数同様に昨年度比で約 25%減となっており、声優学科を中心に満遍なく減っている印象。ただし、受験者の質については、減少しているのは主に E 判定受験者で、B～D 判定受験者はいずれも微増していることから質は一定保っている。また、制度発足から初の A 判定合格が 1 名出た点についても、本校の特待生入学制度の認知と定着が進みつつあると考える。

③-3 高専接続・中学校対応について

これまで、私立星翔高等学校「キャリア選択授業」をはじめ、高等学校からの要望を受けて、職業理解に関する講話や職業体験の実施など高専連携に積極的に取り組んできた。今年度に入ってから、中学校から同様の要望を受けており、中学生に向けてのキャリア教育・職業教育の取り組みに貢献している。

③-4 総括（活動報告、次年度方針など）

これまで取り組んできた私立星翔高等学校「キャリア選択授業」に加え、私立京都両洋高校から「S 探求コース対象のキャリア探求授業」の依頼を受け、ゲーム分野とイラスト分野で授業対応に取り組んできた。併せて、中学校からも同様の依頼を多数受けており、これまで6校の授業対応を行いキャリア教育・職業教育の取り組みに貢献している。

【質疑応答・感想】

- [安道委員] 情報系大学に流れる状況の中、ゲームプログラマー学科の募集が素晴らしい盛り返しをしている。要因をどのように分析しているか。
 - [朝日副部長] 去年の2月頃の時点で前例を見ない落ち込みとなっていたため今年対策を行った。情報発信として広告やSEO対策を行ったことや、今年から通常に戻りつつある対面での進路ガイダンスにより持ち直している。
 - [安道委員] マンガなど減少している学科も見受けられるが、どのような施策を展開するのか。
 - [朝日副部長] 当然露出を増やしていくが、マンガ家志望者はある程度ボリュームが限られている。大学でも学科が設置され、学問か職業かの学び方で棲み分けされて入るが、どのように本校の学びへ寄せていくかが課題となっている。
- [安道委員] 特待生入学に関して、受験者のレベルが上がっているのを感じる。制度の周知が進んでいることが伺える。
- [香川委員] 先程の話で、職業実践専門課程によって既卒入学者の増加が見込まれるとのことだったが、特待生入学も対象となるのか。
 - [下間部長] 職業実践専門課程の対象区分に合致していれば、入学区分にかかわらず補助金の対象となる。
- [香川委員] 能力差があると、どのレベルに合わせて授業を行うかが難しくなる。

→ [下間部長] 高校新卒と比較し社会人や大学新卒は、やはり能力に開きがある場合が多い。そういった学生にはリーダー的存在として学生を統率してもらうことで、クラスやチームがうまく機能し、それぞれのレベルアップにつながると考えている。優秀な特待生入学の学生にはより一層の自覚を求め、学校運営にも協力を仰ぎ能力の底上げに貢献してもらう場合がある。

■ [香川委員] 特待生入学者数が入学総数と比べ少なく留まっているが、対象者の認知が足りていないのではないか。

→ [朝日副部長] 割合で言えば 4 分の 1 程度にとどまり、もう少し増えてほしいところ。高校界限でも試験のある専門学校の入試制度として、認知され始めている。

■ [香川委員] 留学生の入学、募集状況はいかがか。

→ [朝日副部長] 今年度 1 名ゲーム・アニメ 3 DCG 学科に受験者がいたが、辞退された。また、今週末に同学科で 1 名受験予定となっている。

■ [藤井委員] 企業側としては業界を目指す人が増えることは喜ばしい。他校では留学生がクラスの半分程度を占めている場合もある。AMG でも今後留学生の募集を強化していくのか。

→ [朝日副部長] 従来は留学生募集の優先度は低く入学実績はなかったが、日本のエンタメ文化が世界に浸透し、ここ数年で海外からの問い合わせが急増している。他校に比べ敷居は高くなるものの、優秀な人材に絞り募集を開始したところ。

■ [赤松委員] コロナ禍に翻弄された影響が響いているが、高校生だけでなく、既卒や中学生、留学生への募集など幅広く工夫が見られ評価できる。時代の移り変わりによっても入学人数の波がでるが、AMG の教育姿勢はそのままに、その時々ニーズに合わせた教育を今後も対象者へ提示していただきたい。

④学生支援（飯間学生課長）

④-1 コロナウイルス陽性者について

陽性者数 296 名（学生 280 名・講師 9 名・職員 7 名）

情勢にあわせた感染対策を行ってきたが、多くの感染者が出た。大半は学外での感染であるが、声優学科学内発表公演後に一部で学内感染が発生した。検温、消毒、換気等の対策を徹底しても、学科の授業運営等の特性上、どうしても防ぎきれない部分がある。5 月から「2 類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5 類」に移行する方針が発表されたが、本校としての今後の感染対策については、学生の安全と健康を第一に、慎重に検討する必要がある。

④-2 修学支援新制度(高等教育無償化)利用状況について

≪令和 4 年度≫

対象人数 1 年：86 名 2 年：69 名 合計：155 名

授業料減免 73,371,200 円

入学金減免 7,034,700 円

減免合計 80,800,900 円

≪令和 3 年度≫

対象人数 1 年：90 名 2 年：81 名 合計：171 名

授業料減免 76,747,100 円

入学金減免 7,101,600 円

減免合計 83,848,700 円

総数は微減しているが、大阪府下の適用校の中で、本校の利用人数の多さは上位に位置しており、保護者等からの問い合わせの頻度も増えている。学生の獲得・進級において、重要な制度となっている。

④-3 入学式及び卒業式等の式典運営について

令和 4 年度の入学式も、前年度を踏襲し、検温・消毒・来場人数制限を行い、新型コ

コロナウイルス感染症対策した 2 部制にして挙行了。コロナ禍ではあるが、保護者の来場数は増えており、人の動きが戻りつつあるのを感じられた。今年の卒業式、入学式は、3 年ぶりに全学科あわせての 1 部制、映像ではなく、来賓の登壇も予定しており、より一層感染症対策に注意して実施する。

④-4 総括（活動報告、次年度方針など）

依然として支援を必要とする学生は多く、複雑な事情を抱えている家庭もあり、個々に応じた細やかな対応が求められた。学生支援には、教務と事務方の連携はもちろんのこと、保護者との連携や信頼関係も不可欠である。次年度も今あるシステムやホームページをより一層活用しながら、必要な情報が届くよう尽力し、対応力の強化に尽力していく。

【質疑応答・感想】

- [安道委員] 陽性者数は想像より多い数字だが、その大部分が学外での個別の感染ということで、もっと少ない印象を受けていた。
- [安道委員] 昨今の物価高の影響は学生に影響は出ているか。また、今後より悪化し、学費免除を必要とする学生や家計の厳しくなる学生が増える可能性がある。そもそもの進学を断念せざるをえない対象者も増えていく状況において、なにか対応策はあるか。
→ [森学校長] その段階まで状況下経済悪化した場合は、可能な限り臨機応変に視野をひろげて対応せざるをえないと考えている。なお学校として値上げは予定していない。
- [香川委員] 新型コロナウイルスにたいして、検温、消毒、換気は継続されると思うが、アクリルパネル設置やマスクの着用など、学校としてどの程度まで行うか、今後の指針を伺いたい。
→ [森学校長] 一旦は現状維持としている。5 月 8 日に発表される国の方針によっては大きく緩める可能性もある。
→ [巨勢副部長] 声優学科では、発表会後などに感染者が出るたびにクラス単位で登校停

止として対応していた。学科の性質上リスクが高い場合は、急激な緩和は実施しない。

- [赤松委員] WEB 上での情報発信を強化されたことで保護者の安心にもつながる。コロナ対応や経済的なことなど明確な答えがない問題が山積するが、AMG の特徴の一つでもあるきめ細やかな個別対応で乗り越えていただきたい。

⑤令和五年度学校運営について（森学校長）

令和四年度の教育、進路に関しては学生、職員、関係者の尽力のもと一定の評価を上げることができた。来年度より新学科として動画・配信クリエイター学科を発足し学生募集を開始する運びとなっている。学生のためにしっかりとした教育体制を整えていくため、引き続き皆様のご助力をお願いしたいと考えている。本日まで出席いただいた委員の皆様におかれましても、引き続きお力添えをよろしくお願いいたします。

以上